

岡山県感染症週報

2012 年 第 33 週 (8 月 13 日～8 月 19 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2012 年 第 33 週 (8/13～8/19) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 33 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 8 名

(O26: 幼児 男 1 名・女 1 名、10 代 女 1 名、20 代 女 1 名、
30 代 女 2 名、40 代 女 1 名、50 代 女 1 名)

4 類感染症 デング熱 1 名 (50 代 男)

レジオネラ症 1 名 (30 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

○ヘルパンギーナは、前週よりわずかに減少しました。

- 腸管出血性大腸菌感染症**は、第 33 週は 8 名の発生がありました。2012 年第 1～33 週までの累計報告数は 127 名のぼっています。岡山県は「**腸管出血性大腸菌感染症警報**」を県下全域に発令し、より一層の注意を呼びかけています。症状や予防法など、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症警報 発令中!](#)』をご覧ください。

また、倉敷市の 3 保育園で発生した腸管出血性大腸菌 O26 感染症における感染者数は、8 月 15 日以降発生がありませんでしたが、8 月 23 日に陽性者 1 名が発生し、これまでに 105 名 (園児 84 名、職員 7 名、接触者 14 名) になりました。

腸管出血性大腸菌感染症は、微量の菌により感染するため、食品の取り扱いには十分に注意し、食中毒の発生予防を徹底するとともに、手洗いの励行など、ヒトからヒトへの二次感染にも十分注意してください。
- ヘルパンギーナ**の定点あたり患者数は、前週よりわずかに減少し (定点あたり 1.67 → 1.50 人)、第 30 週をピークに減少傾向です。例年 9～10 月頃まで流行がみられますので、今後も感染予防に努めて下さい。詳しい発生状況などは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
- デング熱**は、1 名の届出がありました。岡山県では今年初めての報告です。2012 年、全国では、8 月 12 日までの速報値で 88 名の報告があります。また、岡山県の 2006～2011 年までのデング熱患者は、2006 年 1 名、2007 年 2 名、2010 年 7 名が報告されています。

デング熱は、デングウイルスを保有した小型のヤブ蚊 (ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ) に刺されることにより感染する一過性熱性疾患です。熱帯・亜熱帯地域のほとんどの国にみられます。

ヒトからヒトに直接感染することではなく、ヒト→蚊→ヒトのサイクルで感染します。媒介蚊であるヒトスジシマカは日本国内にも生息していますが、現在、日本国内にはデングウイルスは常在していないため、国内での感染はなく、全て海外で感染した輸入感染症です。そのほとんどが東南アジア諸国への旅行者で、患者数は近年増加傾向にあります。

症状は、感染して 4～6 日後に突然の発熱 (38～40℃) で始まり、頭痛、筋肉痛、関節痛を伴います。発熱のパターンは二相性になることが多いようです。発症後 3～4 日後から胸部・体幹から始まる発疹が出現し、四肢・顔面に広がります。これらの症状は一週間程度で消失し、予後は良好な疾患ですが、一部でデング出血熱という重篤な症状になることがあります。(国立感染症研究所 [デング熱とは](#)、外務省：[世界の医療事情 デング熱](#))
- 風しん**は、全国では、8 月 9 日～15 日の一週間に 96 名増加し、2012 年の累計報告数は 8 月 15 日までに 1,112 名になりました。近畿地方 (特に大阪府、兵庫県) ・関東地方 (特に東京都、神奈川県) で増加がつづいており、今後も動向に注意が必要です。岡山県では、2012 年はこれまでに 5 名の発生がありました。

([全国風しん発生動向調査](#) [国立感染症研究 HP](#)、[岡山県感染症情報センターHP](#))

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↑	★	RSウイルス感染症	↓	★
咽頭結膜熱	→	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	→	★
手足口病	→	★	伝染性紅斑	↓	★
突発性発疹	→	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	→	★★	流行性耳下腺炎	→	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	→	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	↓	
マイコプラズマ肺炎	↑	★★	クラミジア肺炎	→	

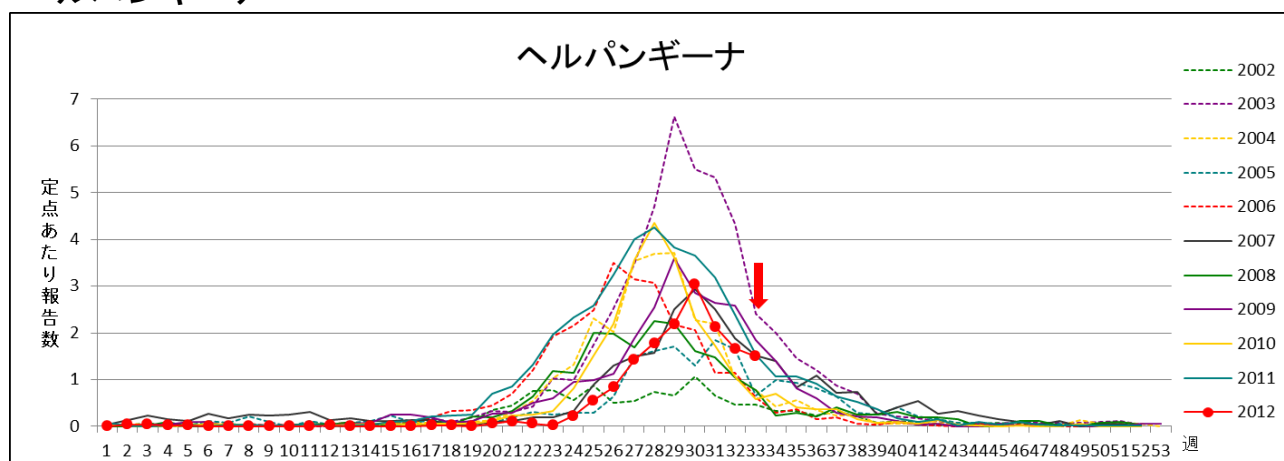
【記号の説明】

前週からの推移： ↓ : 2 倍以上の減少 ↓ : 1.1～2 倍未満の減少 → : 1.1 未満の増減
 ↑ : 1.1～2 倍未満の増加 ↑ : 2 倍以上の増加

発生状況： 空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★★：多い ★★★★★★：非常に多い
 ※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

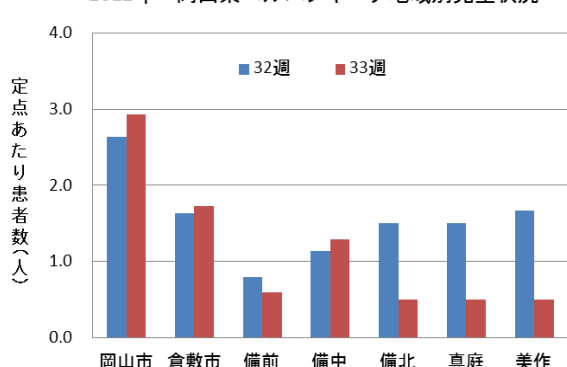
今週の注目感染症

1. ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数は、前週からわずかに減少し（定点あたり1.67 → 1.50人）、第30週をピークに減少傾向です。年齢別では0～3歳の乳幼児が全体の約67%、5歳以下で85%を占めています。県全体では減少しているものの、岡山市・倉敷市・備中地域では、患者の増加がみられ、依然として流行は継続していると思われます。例年、9月～10月頃まで流行が見られる感染症です。手洗いを行うなどひきつづき感染予防に努めてください。

2012年 岡山県ヘルパンギーナ地域別発生状況



【ヘルパンギーナとは】

夏に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。

突然の発熱につづいて咽頭痛が出現し、口腔内に直径1～2mmの赤い小水疱が多数出現するのが特徴です。通常2～4日で軽快し、予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんや髄膜炎を伴うことがあります。口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、乳幼児では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながる可能性がありますので注意が必要です。

保健所別報告患者数 2012年 33週 (2012/08/13～2012/08/19)

2012年8月22日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	1	0.06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	0.17	4	0.29	1	0.09	—	—	3	0.43	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	0.19	2	0.14	4	0.36	—	—	2	0.29	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	257	4.76	35	2.50	89	8.09	60	6.00	23	3.29	5	1.25	3	1.50	42	7.00
水痘	35	0.65	5	0.36	9	0.82	3	0.30	—	—	6	1.50	5	2.50	7	1.17
手足口病	12	0.22	6	0.43	2	0.18	1	0.10	2	0.29	1	0.25	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	23	0.43	10	0.71	4	0.36	3	0.30	2	0.29	2	0.50	—	—	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	81	1.50	41	2.93	19	1.73	6	0.60	9	1.29	2	0.50	1	0.50	3	0.50
流行性耳下腺炎	32	0.59	4	0.29	13	1.18	7	0.70	5	0.71	—	—	—	—	3	0.50
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	8	0.67	1	0.20	6	1.50	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	—	—	2	2.00	—	—	—	—	4	4.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 33週 (2012/08/13～2012/08/19)

2012年8月22日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	1	0.06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	0.17	4	0.29	1	0.09	—	—	3	0.43	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	0.19	2	0.14	4	0.36	—	—	2	0.29	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	257	4.76	35	2.50	89	8.09	60	6.00	23	3.29	5	1.25	3	1.50	42	7.00
水痘	35	0.65	5	0.36	9	0.82	3	0.30	—	—	6	1.50	5	2.50	7	1.17
手足口病	12	0.22	6	0.43	2	0.18	1	0.10	2	0.29	1	0.25	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	81	1.50	41	2.93	19	1.73	6	0.60	9	1.29	2	0.50	1	0.50	3	0.50
流行性耳下腺炎	32	0.59	4	0.29	13	1.18	7	0.70	5	0.71	—	—	—	—	3	0.50
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	8	0.67	1	0.20	6	1.50	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第33週 2012/08/13～2012/08/19)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	9	-	2	2	1	-	-	2	1	-	1	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	-	-	1	1	1	3	2	1	-	-	-	-	1	-
感染性胃腸炎	257	5	15	45	37	22	23	14	18	15	5	6	23	7	22
水痘	35	-	-	7	9	5	8	3	-	2	-	-	1	-	-
手足口病	12	-	1	5	-	4	1	-	-	-	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
突発性発疹	23	-	6	16	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	81	1	6	29	12	9	11	3	2	-	-	1	2	-	5
流行性耳下腺炎	32	-	-	2	2	4	2	4	6	2	2	3	4	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	2	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

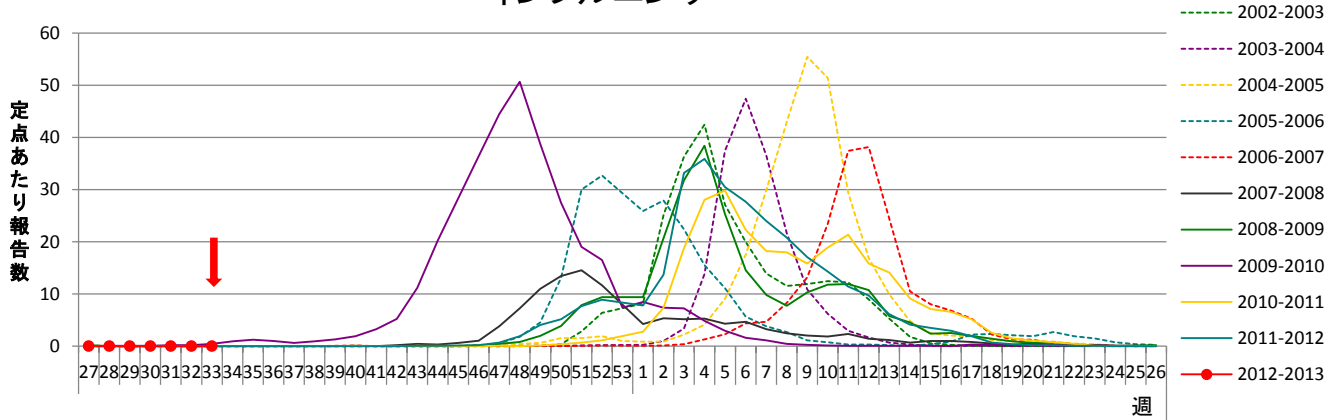
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

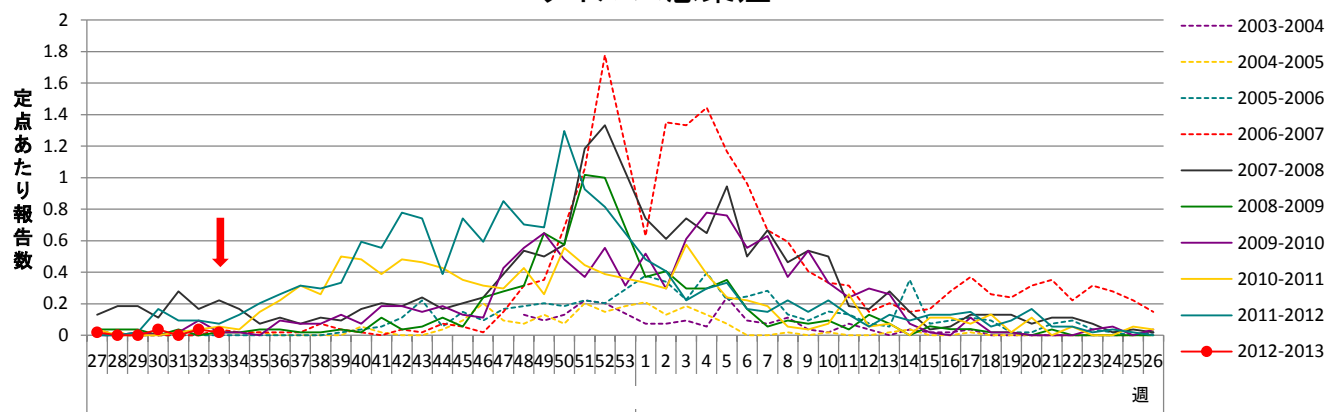
2012 年 33 週

分類	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	278	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	8	127	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	1	3	デング熱	1	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	1	14	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	9	11	ウイルス性肝炎*3	-	4	9	急性脳炎*4	-	1	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	11	15	ジアルジア症	-	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	4	9	破傷風	-	1	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	風しん	-	5	1
	麻しん	-	6	4		-	-	-		-	-	-

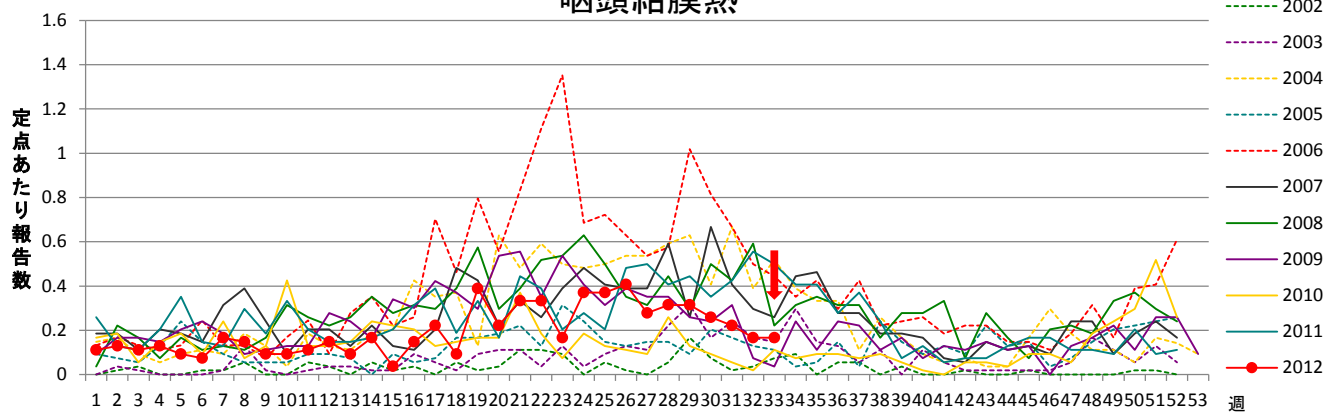
インフルエンザ



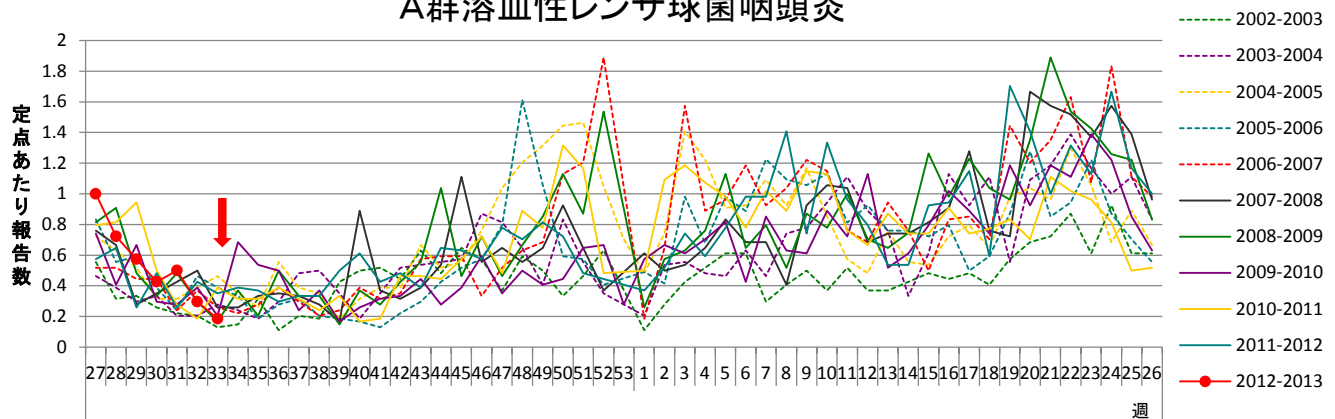
RSウイルス感染症



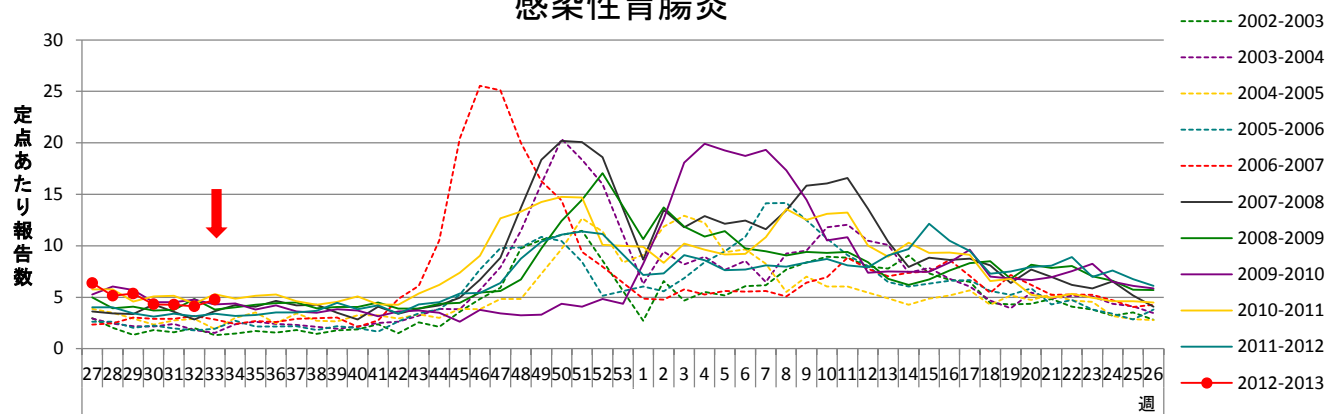
咽頭結膜熱



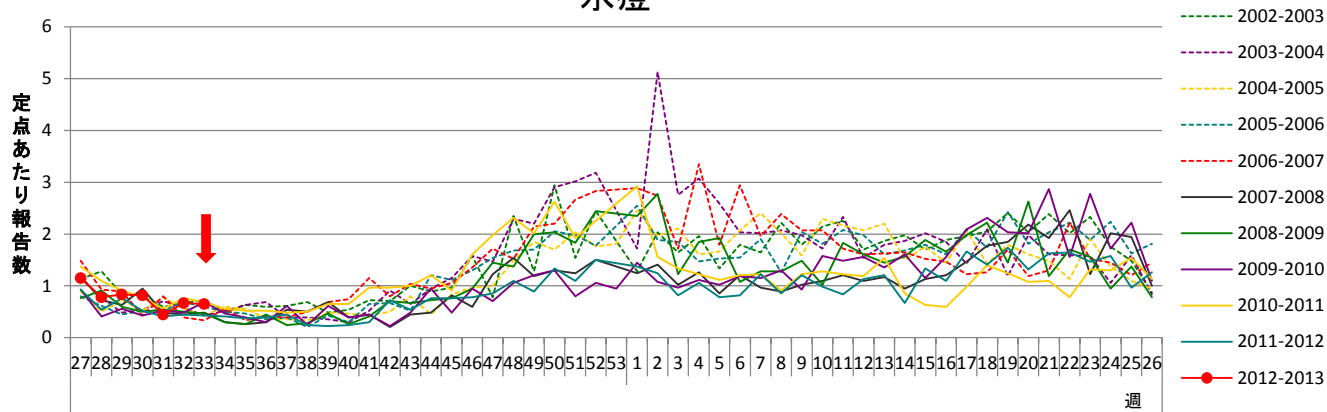
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



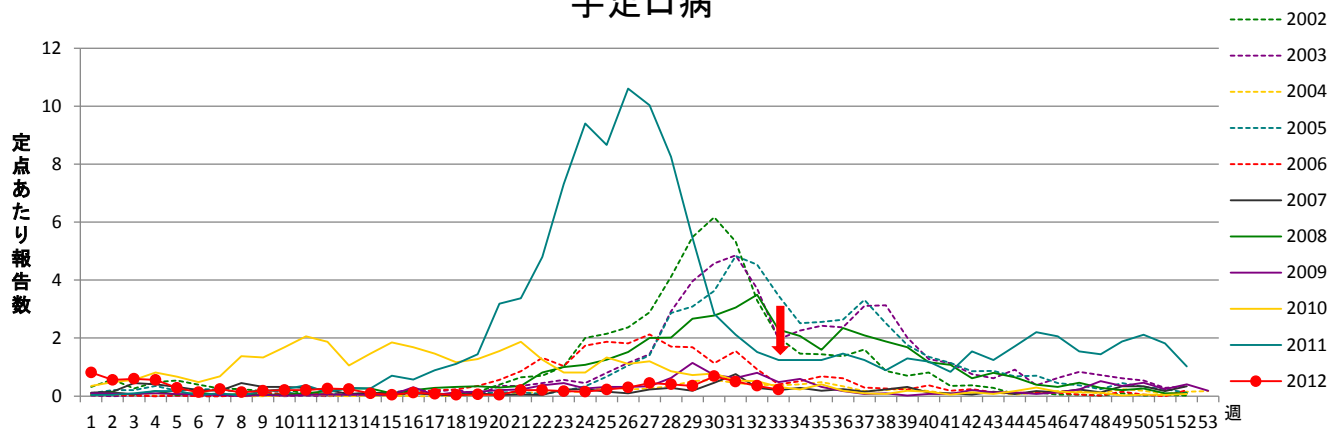
感染性胃腸炎



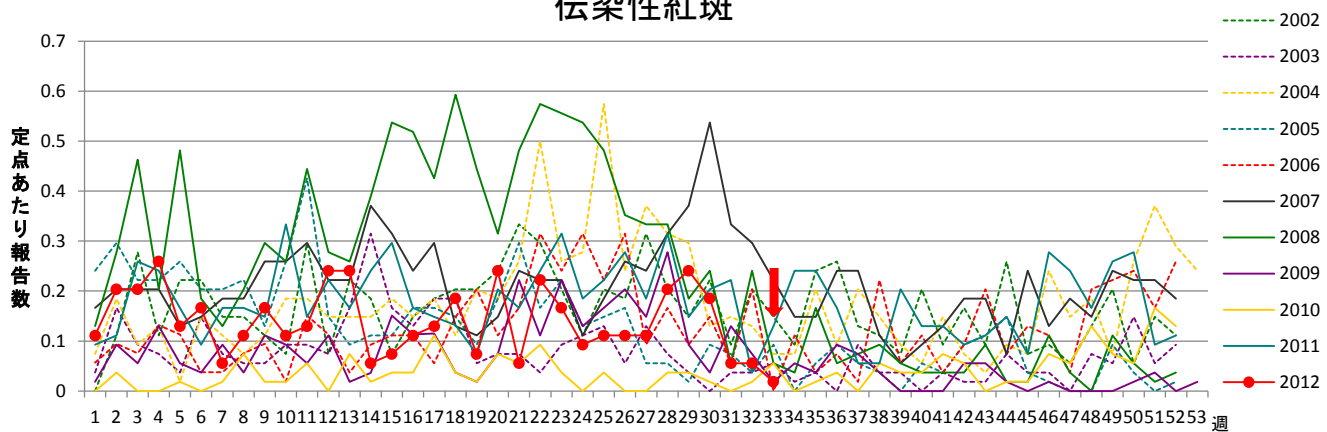
水痘



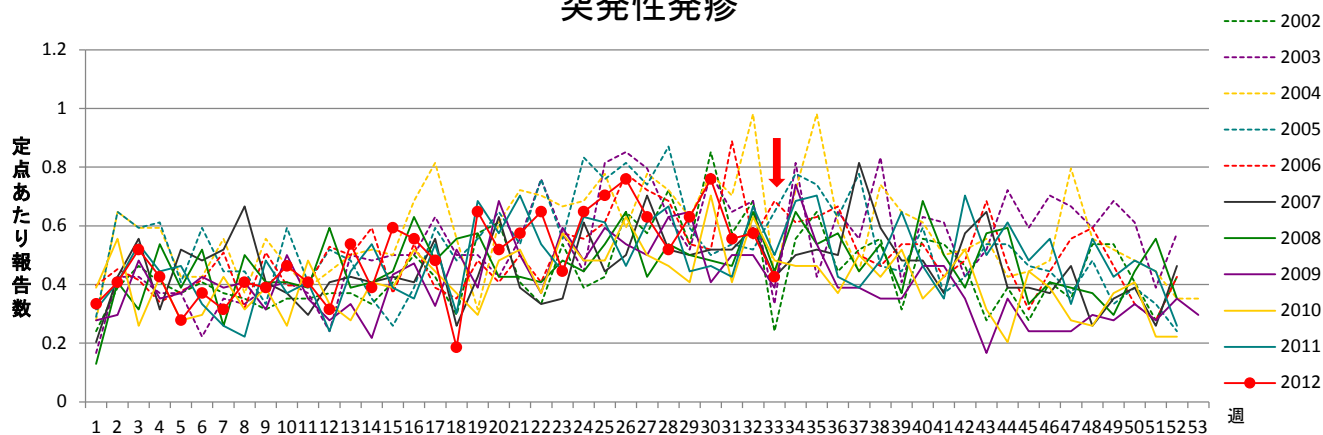
手足口病



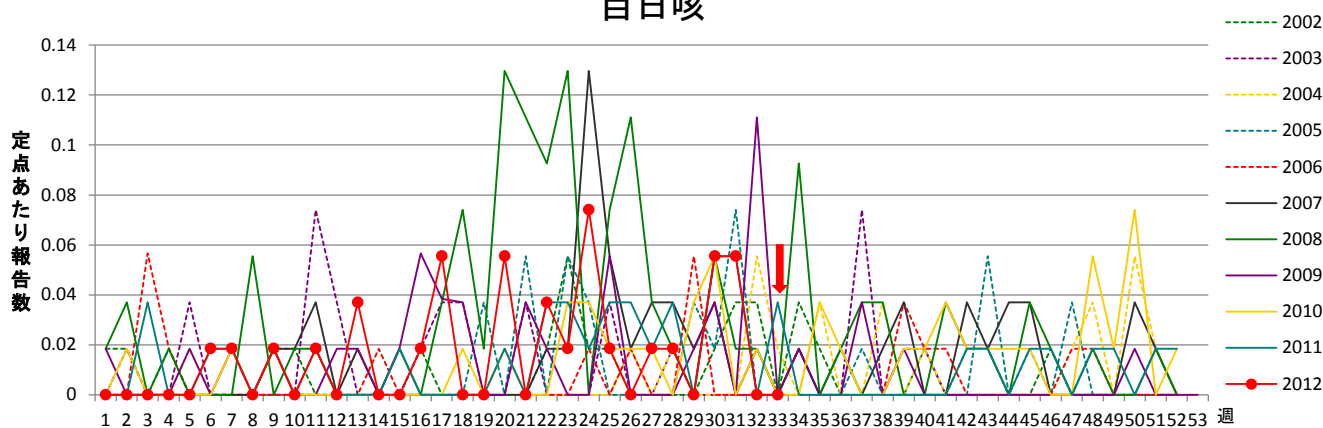
伝染性紅斑



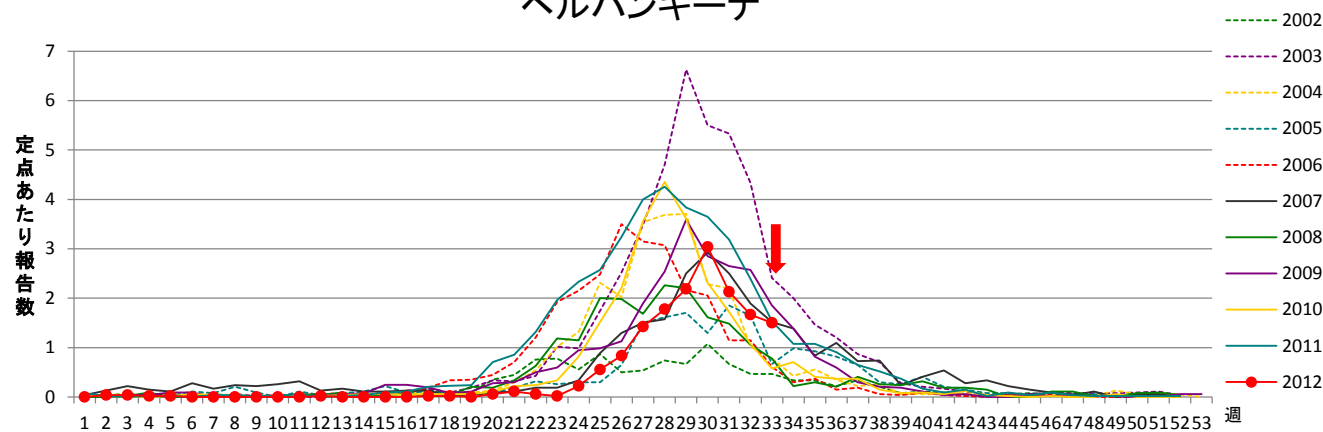
突発性発疹



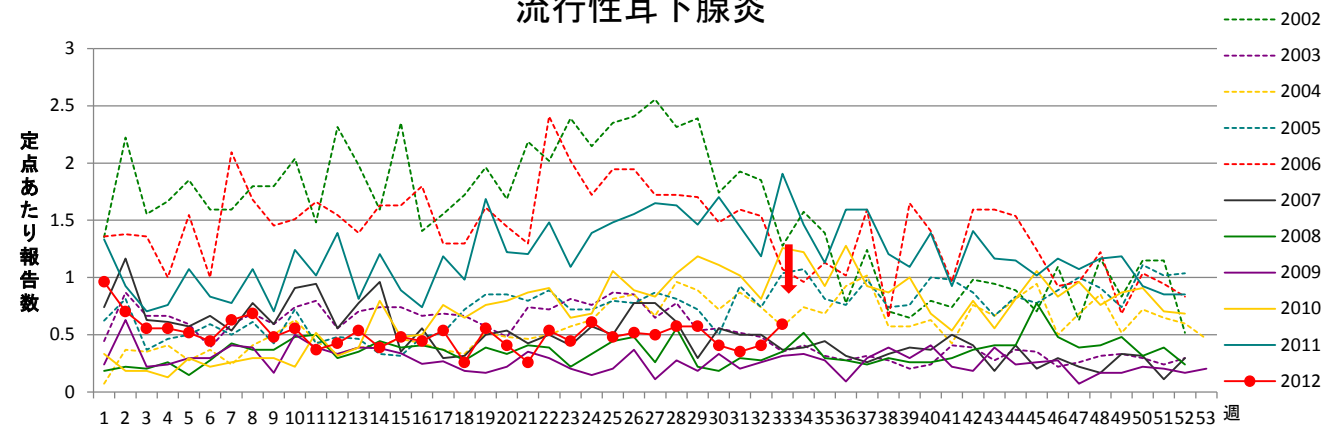
百日咳



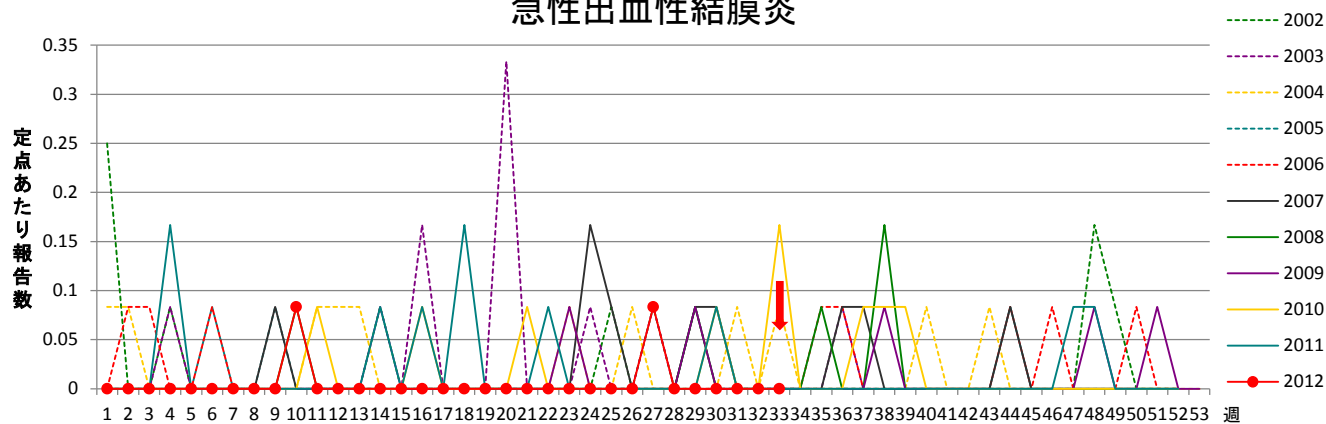
ヘルパンギーナ



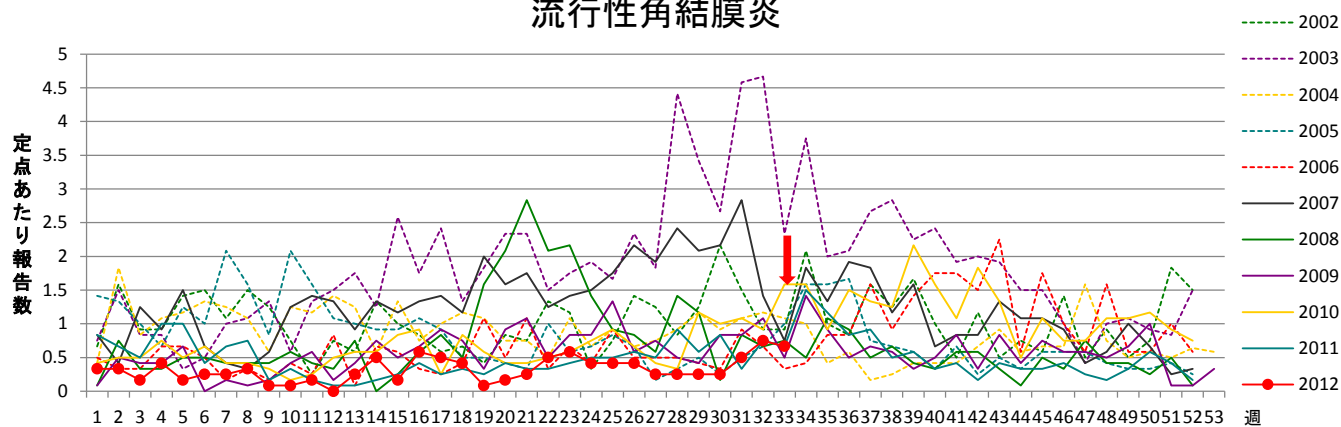
流行性耳下腺炎



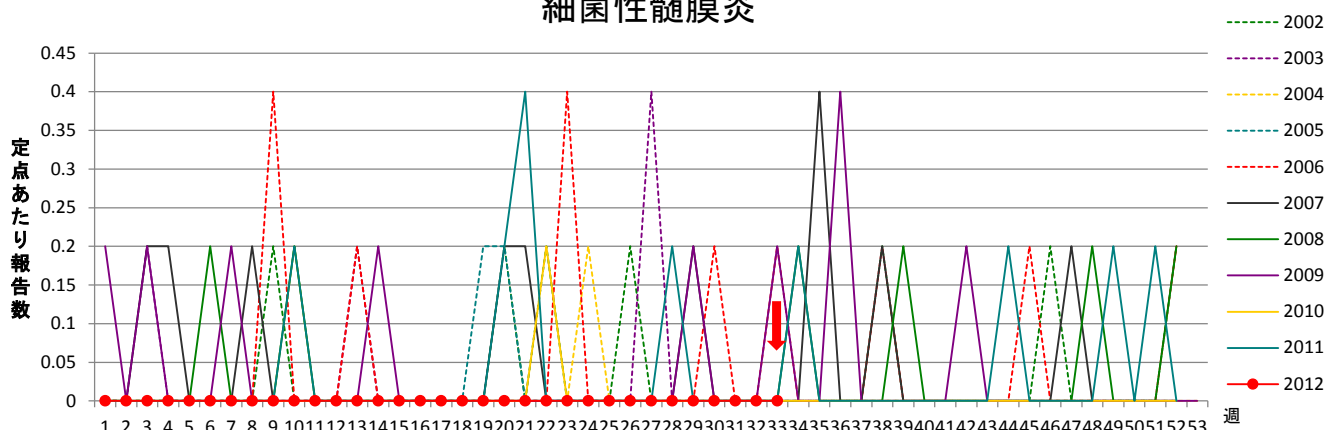
急性出血性結膜炎



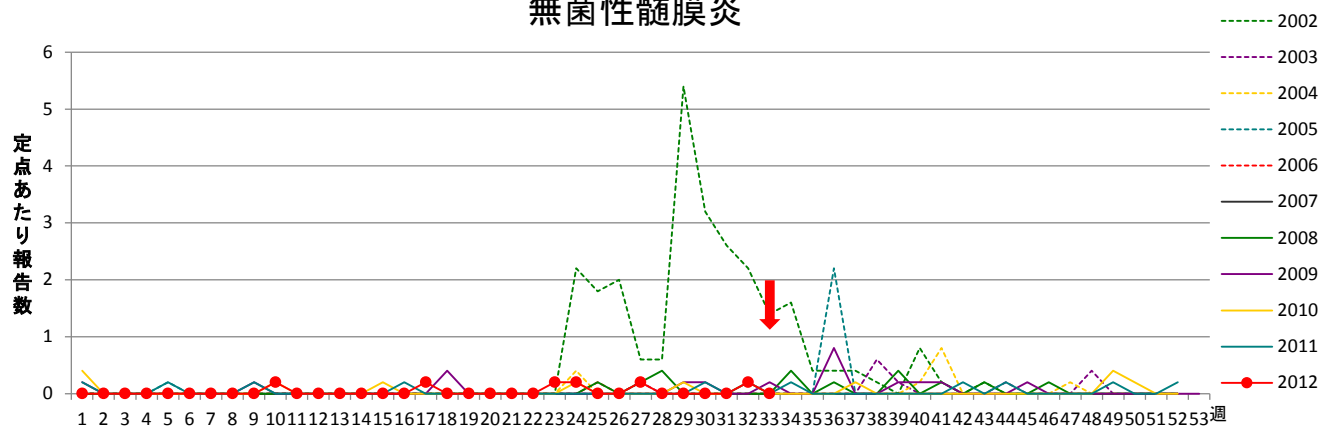
流行性角結膜炎



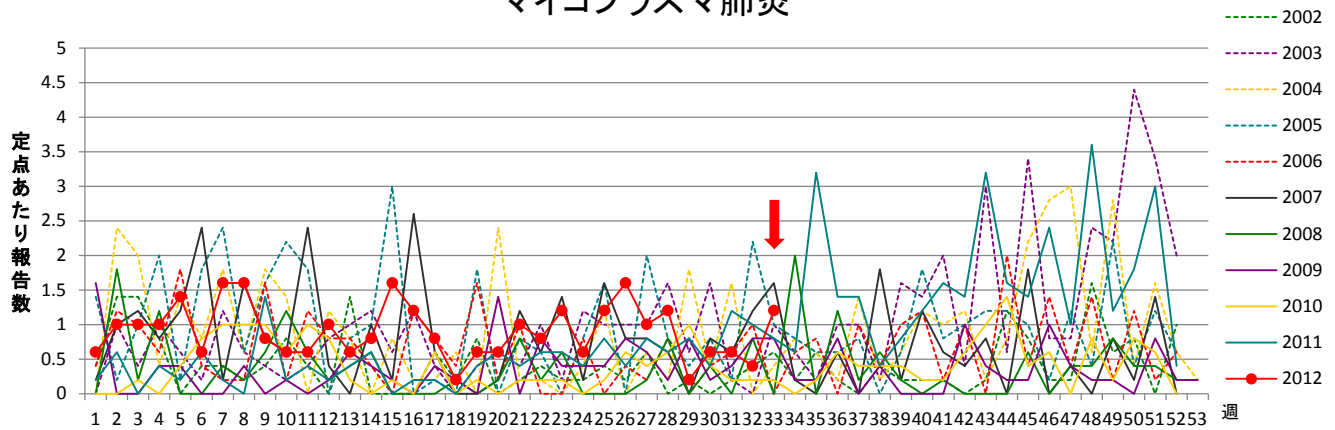
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

